

安曇野市男女共同参画推進審議会 会議概要

1	会議名	第2回 安曇野市男女共同参画推進審議会（第5期）
2	日時	平成28年10月25日 午前9時30分から午後11時45分まで
3	会場	安曇野市役所 3階 共用会議室306
4	出席者	大日向委員、田中委員、松村委員、清原委員、望月委員、二木委員、増田委員、 小林（栄）委員、小林（知）委員、小林（久）委員、秋山委員、青木委員、 降旗委員、宮下委員、湯澤委員、田村委員 (欠席委員) 伊藤委員、日比野委員、三澤委員
5	担当課出席者	藤松部長、市川課長、高山課長補佐、山口係長
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 1人
8	会議概要作成年月日	平成28年11月 日

協 議 事 項 等

【会議事項】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 安曇野市男女共同参画計画策定に向けた意見交換
 - ① 策定スケジュールについて
 - ② 男女共同参画社会に向けての市民アンケート（案）について
 - ③ それぞれの視点から見た男女共同参画の現状と課題
 - (2) その他
- 4 その他
- 5 閉会

【会議概要】

- 3 協議事項 (1)安曇野市男女共同参画計画策定に向けた意見交換

【要旨・主な意見】

会 長：前回は初回ということもあり、事務局から施策説明が主になったが、第3次計画に向けた意見交換として今回は踏み込んだお話をお聴きしたい。日頃感じている男女共同参画について、それぞれの視点から全員にお話しいただきたい。

事務局：策定スケジュールについて説明

1月中に市民アンケートを実施したい。庁内推進本部の係長で構成される部会を開き、アンケート内容に反映させたい。今回提出させていただいたアンケート案には、委員からいただいたご意見をできるだけ反映させ作成した。前回と同じ質問項目により市民意識の変化も捉えたい。また、現在の社会情勢に合った項目を加えたかたちで構成した。特に重要と考えているのは「男女平等でないと思うことは何か」という問いである。この設問の回答に安曇野市としての課題が反映されてくるのではないかと考えている。前回は選択肢から選ぶ形式だったが、選択肢が働いている人向けなので、これをやめ、様々な場面での意見を自由記述できるよう、筆記により、出来るだけ具体的に書いていただ

くこととした。

会 長：意見がある方は発言をお願いしたい。

委 員：問8の「女性の方へお聞きします」の設問部分に『結婚し』の文言を加える。問9の『出産』という項目は、回答に結婚を省いた方がよい。問4の「夫婦とも働いていない」は、退職した場合を含むとする表現は「退職した場合も」とするべき。

会 長：共通した意見はありますか。

委 員：問8について、1～4の順番を変えた方がいいのではないかと。結婚し、出産して家庭に入る人が減っているように思えるので、家庭に入るという選択肢を後にもってくる方がよいと感ずる。

委 員：結婚について、結婚していないという人へ「していない理由」を聞くのもよいのではないかと。所得が少ないなど、いろいろな理由がありそう。希望がなくてしていないのかもかもしれない。

委 員：アンケートをとる意味に対して「いいえ」について理由を聞く必要はあるのかは疑問に思う。問6について、人の気持ちみたいのものがあってもいいと思う。

委 員：人の気持ちというのはどういうものか。

委 員：気持ちというか、考え方というのでしょうか。

会 長：たしかに男女平等かということに、人の気持ちというのは、法制度に関わらないものもありますね。

委 員：設問にできないので、2の空白に記述できるように文面をいれておけばいいのでは。

事務局：問6の自由記載の部分に重要な課題が浮かび上がってくるのではないかと考えている。大切なことだと思うので、気持ちの部分まで書いていただけるよう工夫したい。

委 員：平等でないという理由は、社会通念、慣行が多い。他の選択肢と同等になっているが、学校、社会という他の選択肢にも、慣行・しきたりが含まれているので、同じように選択肢になっていることがおかしいと思う。

会 長：すべてのことに、慣行・しきたりがあるということですね。

委 員：こういう社会状況のなかで、特にこの場面で不平等に感じるという書き方にしてはみてはどうでしょう。

会 長：先ほどの、結婚で退社するというよりも、ネックは出産。そのあたりはどうか。

委 員：結婚・出産を機に退社し、というのは、互いの職場が離れていればどっちかが辞めなければならないので、あえて外さなくてもよい。

委 員：「結婚、出産」という表現でなく、「結婚・出産」というように、それぞれが別のこととする聞き方がよいのではないかと。「、」だと連鎖しているように思える。

会 長：問8、問9について、他の方はどうですか。

委 員：先の方と同様に、別物として認識できる標記がいいと思う。

委 員：結婚、出産に話題が集中しているが、離婚というものが社会的に問題になっている。3組に1組は離婚しているのが現状。そのようなものも、アンケートに盛り込んでみてはどうだろうか。多くの女性は、離婚すると子どもを育てる責任も負って生きていかねばならないという不平等もある。

委 員：学校で、アンケートをやったことを想定すると、結婚していますかと、「はい」以外の方もいる。「いいえ」で母子家庭、あるいは父子家庭で子供を育てている方もいる。母

子家庭の方の視点がわかるようにはしてほしいが、難しいですね。「シングル」で頑張る家庭の中での男女共同参画の視点もある。それは子育て世代に多い。こういった人を傷つけずに質問できるような聞き方を考えてほしい。

委員：そもそも、結婚しているかどうか、聞く必要はあるのだろうか、このことは、男女共同参画に対しては、明らかにする必要はないと思えるのだが。

委員：質問の意図はわかるが、行政として答えがほしいという意義を教えてくださいとありがたい。

委員：何のためにアンケートをするのか。市で把握できることも多いではないか。わざわざ聞くことは、失礼。原点に戻る必要がある。男女平等という法律ができた事原点に。女性の参加・参画に特化したアンケートをとるべき。ウィズ安曇野（第2次計画）の項目で継続的に聞いていくべきものもあるが、アンケート内容は、せいぜい2～3ページが適当と思う。

事務局：継続的に聞くべきものを残し、時代に合った設問も昨年9月施行の女性活躍推進法を踏まえた計画にしたいと考えていたが、計画策定期間を考慮すると、まず市民意識アンケートを実施したい。庁内推進部会の中で、アンケート内容をそれぞれの部署の事業で活かせるかを考え、各担当から聞き取りする予定である。

委員：アンケートを出すときに、内容の要点を別枠にして書いていただきたい。何のために実施するのかを書いていなければ、軽んじられてしまう。理由を明確にしたうえで出すことで回答してくださる方も増えるのではないかと。

委員：アンケート集計結果の報告書を読ませていただいて、若い人の回答率は37%と低い。特に20～30代の答えが少ない。アンケートの意図がわからないと答えない。最初に、これが我々の生活にどのように役立つかをわかりやすい文言で周知するものがほしい。

会長：アンケートに答えようという気持ちにさせる文言を記載すべきということですね。

委員：アンケートの回収率が悪いということは、ページ数が多くて、見ただけでうんざりするということもあるのではないかと。内容が多すぎると感じてしまうことも原因だと思う。短くすると意図したことがわからない・・・だが、スリム化も必要。問4は不要と思う。

委員：アンケートをいただいた時、アンケートの主旨がわからないと、回答側のギャップが生まれる。答える側は、「なんでこんなたくさん。」ということになるので、年ごとに細かく聞いていき、一度に全部やらなくてもよいのではないかと。また、問6の2が記述になったのなら、問5はいらないと思った。最初はさらっと行うべき。

会長：アンケートは項目が多いと後回しにして期限がきてしまいがちですね。事務局としてはどう思うか。

事務局：わたくし共も感じていたご意見である。男女共同参画の理念は多くの分野に関係しており、多岐にわたる質問を設けることになってしまう。事務局側で、庁内推進部会に諮り検討する中で内容を精査し、できるだけ簡潔なものとなるよう取り組みたい。

委員：第2次計画の「目的」第1節に計画策定の目的があるが、ここはそのままなのか、時代に即して変わっていくのか。ここは、変わらない普遍的なものか。

事務局：アンケートの回答の中で、市民が何を考えかということによって変わってくる。あくまで市民意識から得られたご意見や、見えてくる課題等に基づいたものにしていきたいと考えている。行政側として残したい項目もあるが、審議会の皆さんの意見を聴きなが

ら添削していきたい。また、今回の計画の中に、外国籍住民という項目を独立して設けた。人数は減ってきているが、安曇野に根を下ろして生活している人もいる。地域に溶け込んで生活し共生している。外国籍住民の方にも働きやすさ等について意見をいただきたいと考えている。

会 長：アンケートによって、2次計画と3次計画の策定目的は変わりうると確認します。

委 員：外国籍住民の方にアンケートと言われたが、外国籍の方に届くこともあるのか。

事務局：外国籍住民用のアンケートを別途実施する。設問も違うものを作成する。実施しても返ってこなければ意味がないので、意見を得られるように対策する。

会 長：男女共同参画理念の中に、多文化共生という分野を設け、この部分を計画に入れる必要があるというのが行政の考え方ですね。

委 員：外国の方も学級におり、会議に出ることがないので、何を考えているのか、意見を聴く必要があると思っていた。

委 員：日本人が外国籍の方に関わっているか、という質問に関して、逆に外国籍の方が日本人に対してどう関わっていききたいかという問いも必要かと感ずる。

事務局：今後、皆さんに示していく予定である。外国籍の方とは風習等の違いもあると思うが、外国人・日本人と言っている時代ではなくなっている。外国籍の方が、地域とどのように繋がっていききたいか、日本人が垣根を作っていないか、ということも含め、把握していきたい。わたくし共では、過日の外国籍住民を支援する団体が主催したイベント「国際デー」にて、聞き取りを行ったが、これを踏まえアンケートも考察して、できるだけ多くの回答を得て、意見を反映させていきたい。

会 長：まだご発言がない委員、いかがですか。

委 員：アンケート項目が多く長いことに関してですが、働いている方、子育てをしているという方には、真剣に時間をとって答えていただけるかは疑問。若い世代は、共同参画に対してまだ理解が不十分だと思うので、意見を募る理由を「このように役立てたい」と記載して訴えていけばいいというご意見に賛同する。

会 長：アンケートについて、様々なご意見をいただきありがとうございました。

各方面でご活躍されている方々がお集まりですので、男女共同参画社会づくりで日頃実践していらっしゃることや感じていることなどお聞かせ下さい。

事務局：男女共同参画広報紙「湧愛」の発行に向け座談会を行った。当初、出席者の方々は、ご自分の話す内容が、男女共同参画を目指すものと方向が違ったら不安、とおっしゃっていたが、ご経験に基づく内容が胸を打ち、男女共同参画の理念は人生の身近なところにあると再認識した。それぞれ違う視点で感じていることを次回計画にも生かしていきたいと思った。ぜひ、この場でも違う方向かと思わずご意見を頂戴したい。

委 員：アンケートの内容は、この町に住んでみて、どうしたら住みよいかという内容にすれば、参加しやすいのでは。自分の興味のある領域から入っていくのは、また、どんな支援を受けたいかという内容も加えてみるとニーズが把握できる。アンケート結果を踏まえて、集まって参加していく契機となるのが、アンケートの目的に沿うと思う。

会 長：社会づくりの主旨で「住みよいまち」ということは、確かに大切なことです。

委 員：それは「協働のまちづくり」の中で重要な取り組みであり、そちらで委員のご意見は大いに役立つものになると思う。

委員：目的がはっきりしていないため、家庭調査みたいな内容になってしまうと感じている。

会長：「参加」と「参画」という言葉があり、参加して一歩踏み出した人材を、いかに「参画」に結び付けていくかではないでしょうか。事務局は何かありますか。

事務局：申し上げているとおり、それぞれ違った視点から、それぞれのご意見を求めている。また、すべてのご意見を尊重しているし、認め合うことから男女共同参画は始まると捉えている。

委員：男女共同参画について、住民の間で共通理解ができていないことが現状。女性が地域へ出てくることをして「参画」できているという認識の人もいるが、女性が地域の活動に出てくる「参加」ではなく、そこへ参加した女性の意見を地域の活動の計画へ反映させて、「参画」を実現することが、「参画」の本当の意味ではなからうか。

会長：地域づくりの計画と、男女共同参画社会づくりの計画があることを承知おくということですね。ほかにご自分の活動などからご意見ありませんか。

委員：PTAでは、会長には男性が置かれているが、女性でもいいと思う。学校行事には、最近ではお父さんの参加も増え、いい傾向だと思う。運動会などでは、お父さん、お母さん両方来ていることも多くなっている。学校によっては、会長の選出に決まりがあり、制約されているところがある。ないところもある。子どもの名簿も、今は混合。学校は男女共同参画について進んでいると感じる。

委員：誤解があってはいけないので。申し上げたかったのは、地域づくりのなかで男女共同参画の理念をどう組み入れていくかということ。別ものではない、ということです。

会長：そのことは、承知している。今回の計画については、地域づくり課の計画と同様の計画を作ろうとするものではなく、男女共同参画に特化した計画を策定するため話をしていくということをわたくしは申し上げたつもりです。

委員：アンケートの題目について、男女共同参画社会に向けて、というコンセプトであるが、外国籍の方への質問もある。共生社会に向けてというようにするとよいと思う。

委員：目的をはっきりさせてアンケートを行うには、共同参画に特化したものであるのに、聞いている分野が多岐にわたっているので、趣旨がぼやけてくるように思える。

事務局：外国籍の方も、安曇野に住む人として意見を頂いて、参画していける社会に向けた計画にする必要があるので設けた。地域へ出ていくことをしないと、参画には繋がらないので、参画できない方がいた場合、何がネックなのかを知りたい。皆様からご意見をいただき、よいアンケートを作りたい。

委員：過去のアンケートを踏まえながら、現在のデータはこうである、ということを知りたい市の立場もあるので、24 ページを活用し、共同参画の質問では、どこの部分について尋ねているかを示すようなものを、アンケートの最初に提示しておくというのではないか。多くの設問の前に図式化したものを示すのは効果的と考える。

会長：多くのご意見をお出しいただきありがとうございます。今後、アンケートの内容について、正・副会長と事務局とで打ち合わせをしながら進めていきたい。

3 協議事項 (2)その他 特になし

4 その他

事務局：次回審議会を12月の半ば以降に開催したい。次回は、意見を精査し、庁内推進部会の意見を反映させ、こちらの意図していることも踏まえた案をお示ししたい。

